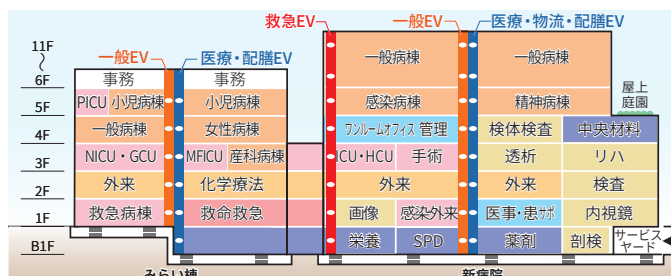

既存みらい棟との機能連携を最大限確保し、効率的で見守りやすい新病院をつくります

新病院の各部門が既存病院棟と効果的かつ効率的に機能連携し、大学機能とも連携する平面計画

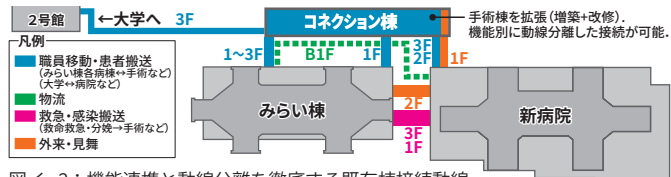
「動線分離」と「迅速性向上」を徹底した既存棟との接続動線の確保

医療の迅速性を高めるフロア構成：みらい棟各階の機能を踏まえたフロア構成とし、患者搬送・外来患者・見舞い・スタッフ・物流などの動線を最適な位置（4フロア8ヶ所）で接続して、安全性や迅速性を高めます。

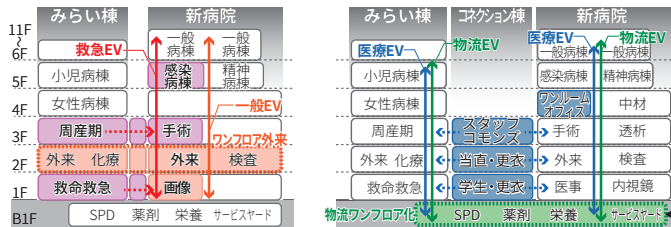
- ・**救急エレベータ（以下 EV）：**みらい棟1階救命救急に近い位置に救急 EV を設置し、手術・アンギオ・ICU への搬送を最短化します。
- ・**外来のワンフロア化：**みらい棟に合わせ2階に外来を配置・接続し、患者の移動負担が少なく分かりやすい計画とします。
- ・**物流のワンフロア化：**地下1階にサービスヤードと給食や薬剤などの供給部門を集約し、みらい棟とも接続します。
- ・**コネクション棟：**現手術棟を増築・改修し、更衣・当直・スタッフコモンズのあるスタッフ拠点として整備します。大学・みらい棟・新病院を機能別かつ重層的に接続し、動線分離を徹底した安全で迅速な動線を確保します。
- ・**緊急手術の迅速動線：**みらい棟3階産科病棟・周産期エリアと新病院を接続し、緊急手術に迅速に対応可能とします。



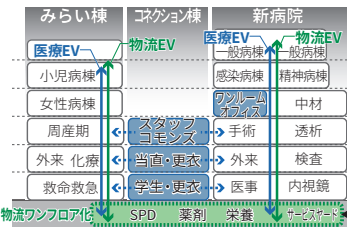
図イ-1：機能連携と効率性を最大化するフロア構成



図イ-2：機能連携と動線分離を徹底する既存棟接続動線



図イ-3：外来動線と患者搬送動線



図イ-4：物流動線とスタッフ動線

将来の社会変化に柔軟に対応できる計画

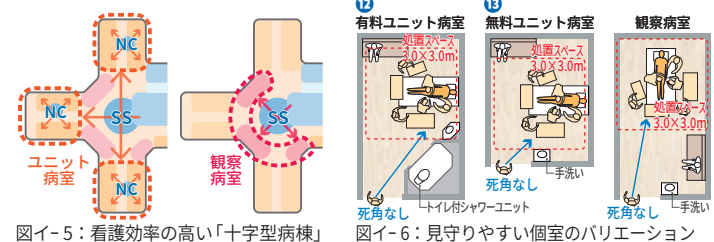
変化を想定した施設づくり

- ・**人口減少社会への対応：**人的資源の集約の観点から本学には医療・教育・研究の機能のより一層の拡充が求められる一方、省人化への対応や患者減少にも対応する必要があります。
- ・**ワンストップ外来：**将来的にブロック受付をなくしてワンストップ外来の運用も可能とする外来中央受付の設置を提案します。
- ・**診察室の標準化：**診察室は寸法や設えを標準化したフリーアドレスとし、診療科の再編などへの対応が容易な計画とします。
- ・**病室改修の想定：**ユニットバスやトイレのない無料個室をまとめて配置し、病床数削減時の間仕切変更改修に備えます。
- ・**ワンルームオフィス：**固定間仕切のないスペースとしてスキルラボなど人材確保のための教育・研究関連機能の拡充に対応します。

病棟における全室個室化の効果が最大限活かされる平面計画

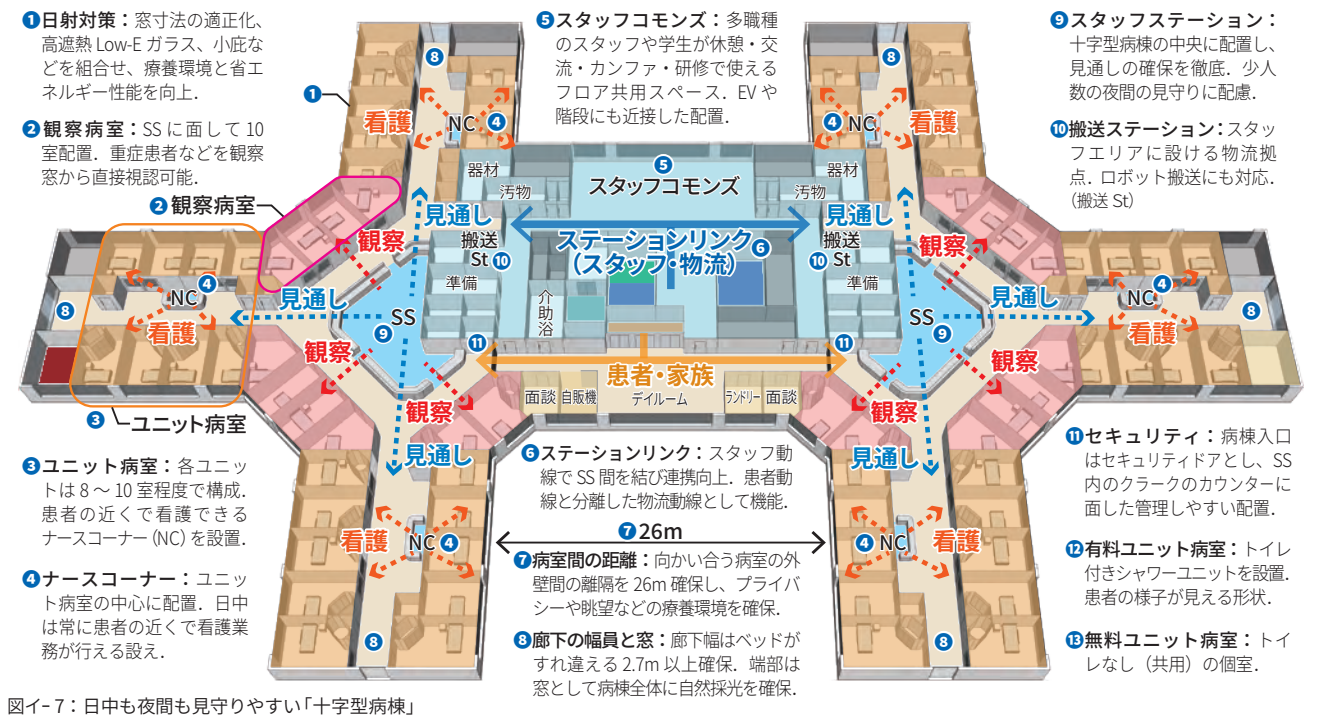
日中も夜間も見守りやすい十字型病棟で看護効率を高める

- ・**全室個室に適した十字型病棟：**全室個室の最大の課題となる看護動線の長さに対し、その最短化とスタッフステーション（SS）からの見守りを重視した「十字型病棟」を提案します。SSに直接面する「観察病室」と、3つの「ユニット病室＋ナースコーナー（NC）」で構成し、SSからすべての廊下が見認でき、夜間の見守りにも万全に備えます。

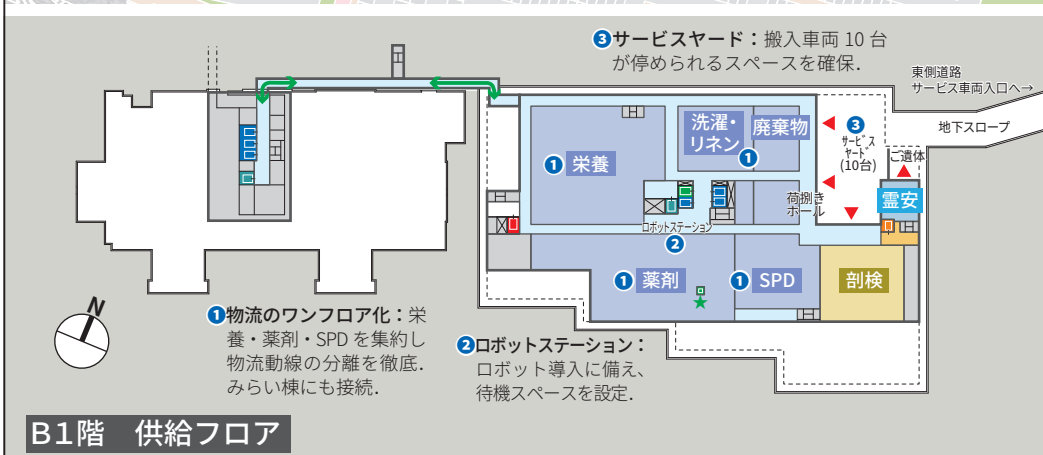
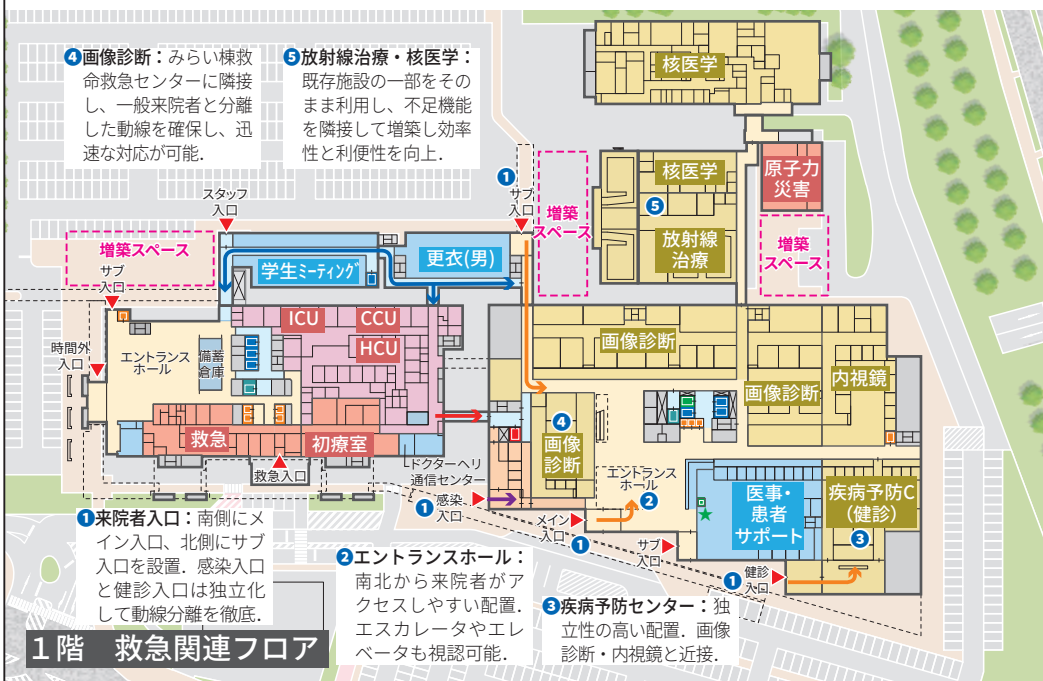


図イ-5：看護効率の高い「十字型病棟」

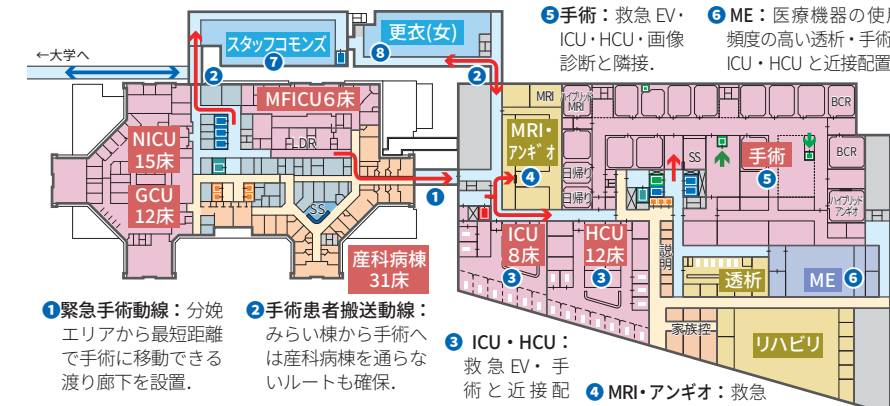
図イ-6：見守りやすい個室のバリエーション



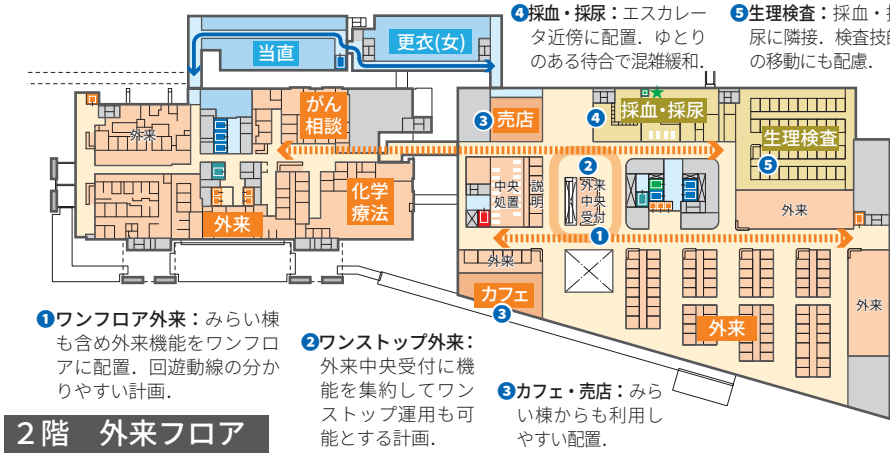
図イ-7：日中も夜間も見守りやすい「十字型病棟」



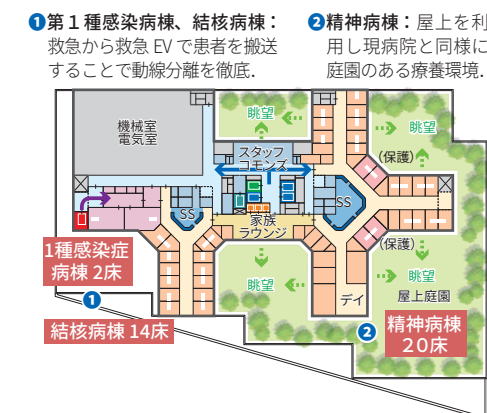
- 7. スタッフコモンズ：コネクション棟（現手術棟）に設置し、スタッフ間の交流を促進し利便性を向上。
- 8. 動線に沿ったスタッフ拠点：大学と病院をコネクション棟を介して接続。更衣・当直などの機能を集約。



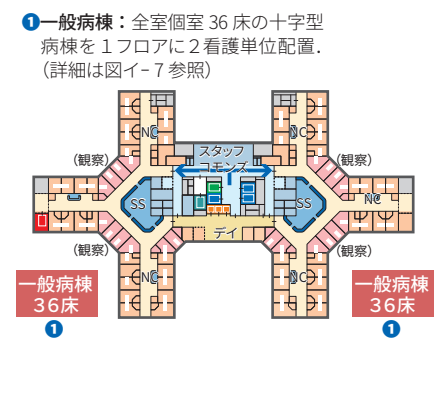
3階 高度医療フロア



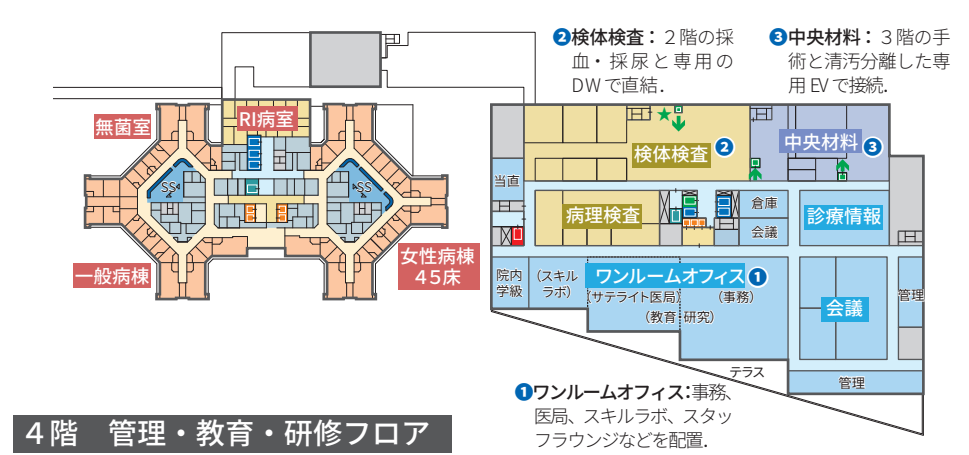
2階 外来フロア



5階 感染・精神入院フロア



6-11階 入院フロア



4階 管理・教育・研修フロア

